

地域の人口減少とまちの賑わいを新たな融合で解決する。

北海道ニセコ高等学校

3年 緑地観光科

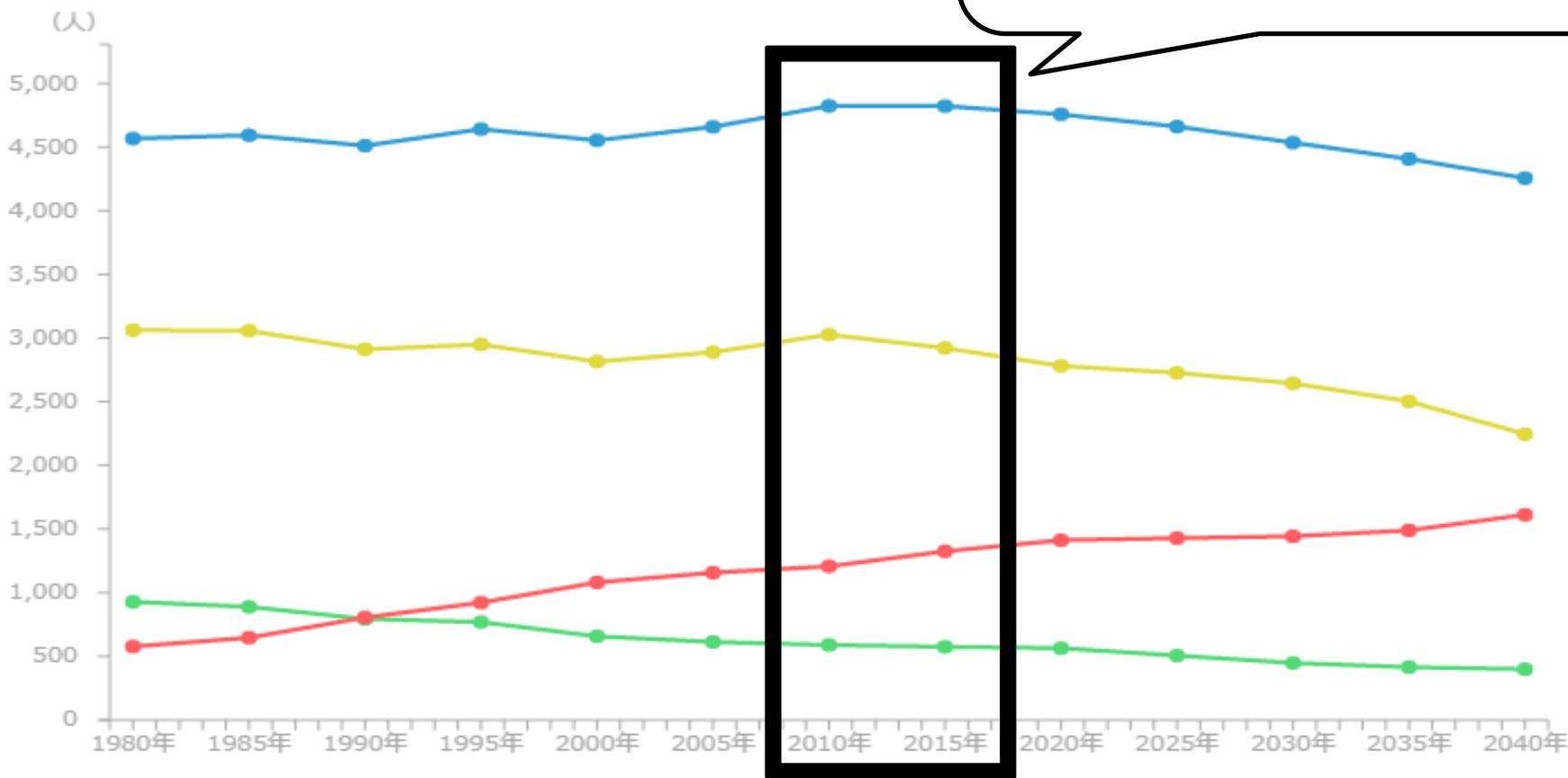
農業科学コース 織笠 大貴

観光リゾートコース 佐藤 万優

ニセコ町の人口推移について(分析)

データで見る人口推移

2010年が4,823人
2015年が4,822人
となっている



ニセコ町の人口推移について(分析)

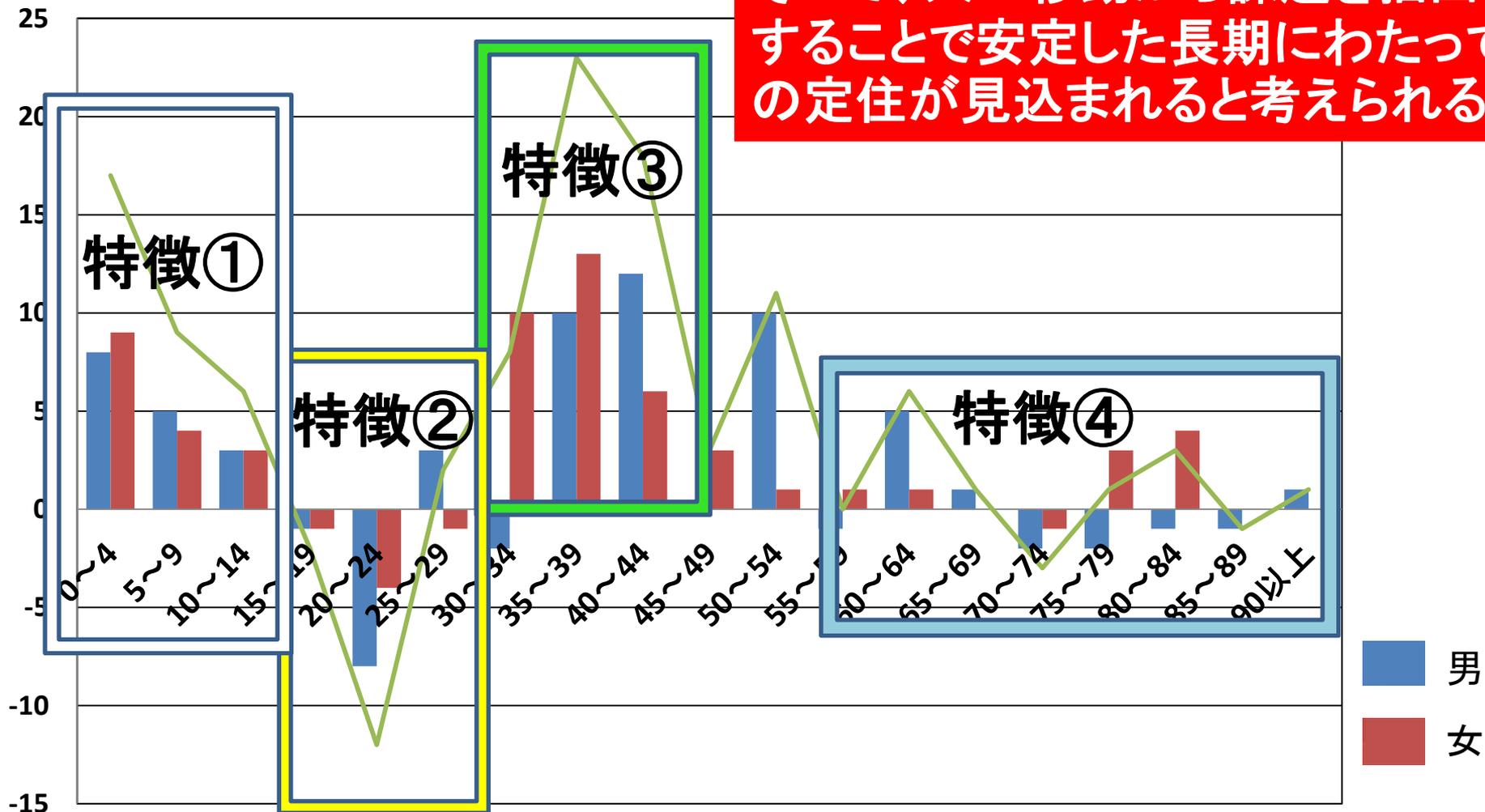
- 他の市町村が人口減少している中でニセコ町は2010年から比べると減ってない。
- 例えば隣町の北海道蘭越町
(2010年5,292人、
2015年4,804人: RESASより)
マイナス
145,123人
- 北海道全体(2010年5,506,419人
2015年5,361,296人: RESASより)
マイナス
488人
から比較しても人口減少にはなっていない。



次にニセコ町の年齢区分別の人口移動をしてみる

ニセコ町の人口推移について(分析)

年齢区分別、純移動者数



特徴① 幼児・子どもの転入が多い

課題

- 学生が増え、教育施設の充実化が図れない
- 独自性や地域性がある取り組みが必要となる

政策

- 教育施設の増設・充実化
- ニセコ型教育の推進
 - ニセコプライドを持った人材育成ができる

特徴② 20代の転出が多い

課題

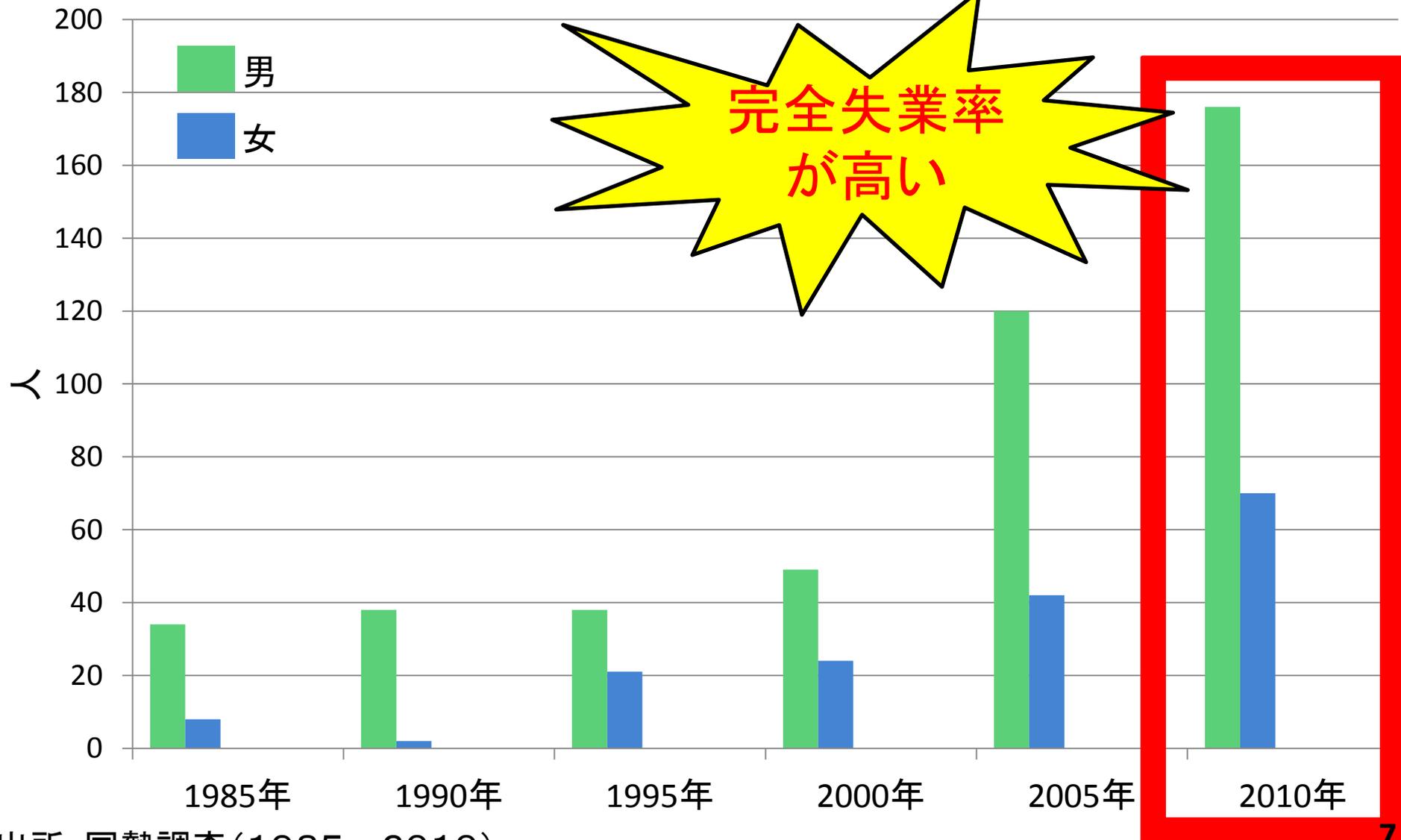
- ニセコ町で働く場所が少ない
(次ページ完全失業率グラフ参考)
 - 町外または都市部で働かざるを得なくなる
 - 働き口を探す機会が少ない
- ニセコ町内での人手不足(農業・観光業)

政策

- 就職を促進する働き方のマッチングを狙う
 - ハーフタイム制度の導入・仕事と余暇の両立化を図る
- Uターンの促進
- トrendを取り入れた企業誘致・イベント開催

人口移動の特徴

男女別完全失業者数の推移



特徴③ 子育て世代の転入が多い

課題

- 子育て環境の充実・受け入れ体制の確立
- 子育て支援による雇用の対策が必要

政策

- 移住者のいつでも相談できる環境作り
→ 移住者相談センターの設立
- 教育支援の充実（医療費・教育サポート）
- 住宅環境の整備

特徴④ 高齢者の転出が少ない



近隣地域における65歳以上の人口増減比較

2014年	ニセコ町	プラス	2人
	蘭越町	マイナス	10人
	倶知安町	マイナス	27人(RESASより)

→近隣地域と比べ、高齢者が微増傾向にある
すなわち、ニセコ町に留まっている者が多い

課題

- 技術の継承や住みやすい環境作りが出来ていない
- 高齢者の活躍できる場が少ない

特徴④ 高齢者の転出が少ない

政策

- 学校での体験学習を通じて伝承の機会を設ける
 - 古き良き伝統の引き継ぎや、後継者養成に繋げる
- 公共交通機関の整備
 - 新たなコミュニティーの場となる
 - 生活移動の補助となる
 - 例) 町内循環型バス「ふれあいシャトル」の復活
- 子育て支援への参加

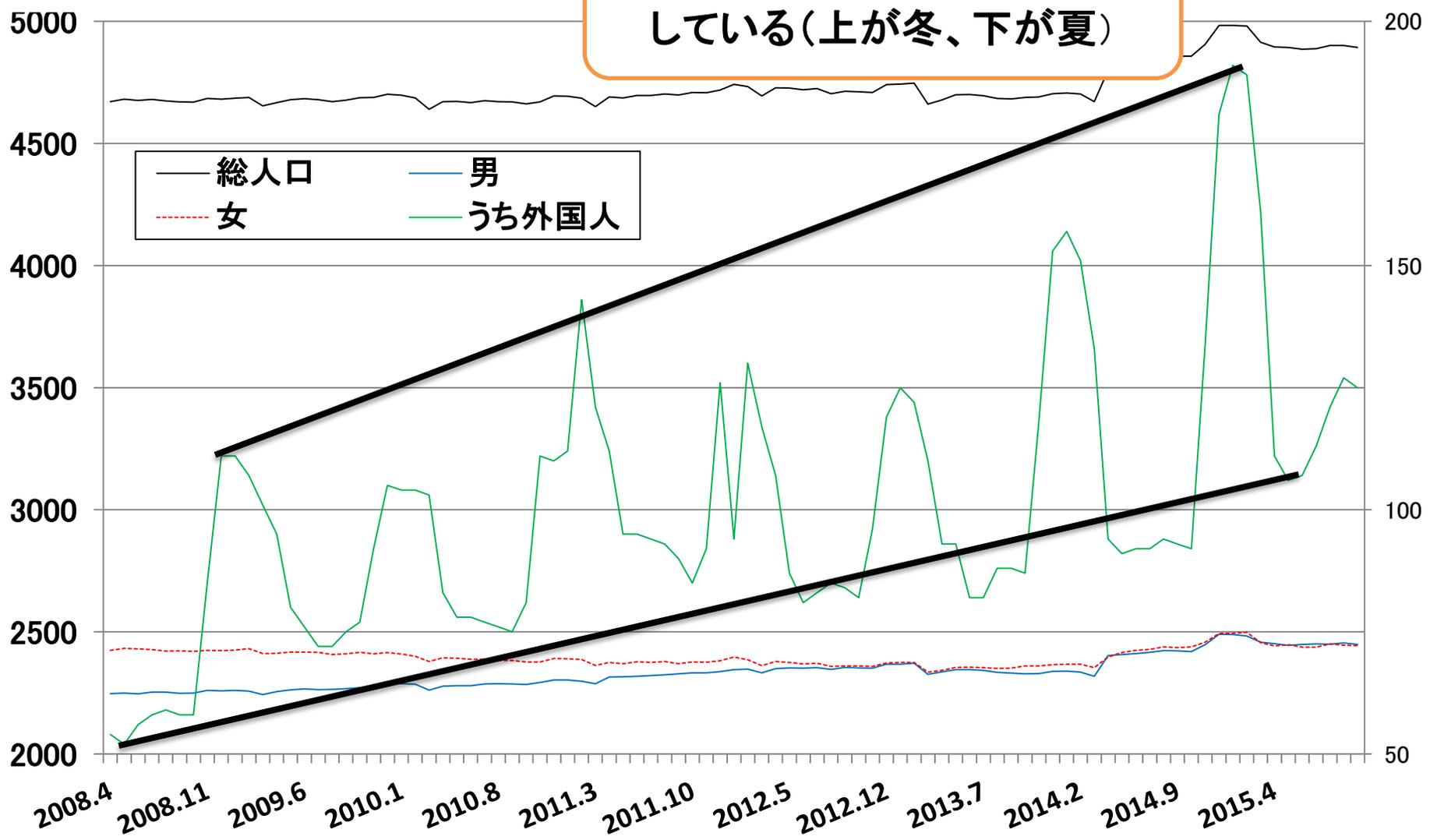


これら4つの特徴のほかに
ニセコ町特有の人口移動がある

新たな人口移動(分析)

ニセコ町外国人人口グラフ

外国人の人口がベースアップしている(上が冬、下が夏)



出所:住民基本台帳より

新たな人口移動

- 外国人の人口 (夏: 2008年7月 58人
プラス34人 2014年7月 92人)
(冬: 2008年1月 111人
プラス80人 2014年1月 191人)
- 外国人宿泊客の状況 (2004年 計13,833人
2014年 計148,335人)
- 4つ特徴のほかにニセコ町では

10年で
約10.7倍

新たな人口移動がある



外国人の人口が劇的に増え、
年々定住していることが分かる

外国人が年々増加している中での 対応が求められる

課題

- 外国人の能力を活用する雇用はあるのか
- 外国人にとって住みやすい環境づくりはしているのか

政策

- 外国人が働ける企業を誘致し、雇用機会を増やす
→ 雇用により長期的な定住が見込まれるため
- 外国人のコミュニティー場所を設ける
- 日本語の養成サポートを行う
→ 日本企業への雇用にも繋がる
- 生活環境のインバウンド整備を行う

年代別人口移動の課題のまとめ

- 幼児・子どもの増加
- ニセコ型教育の推進

20代の転出が多い

- Uターン雇用の促進
- 雇用のマッチング
- トレンドのある街づくり

子育て世代の転入

- 子育て環境の充実
- 子育て・教育支援の
雇用促進

高齢者の転出者が少ない

- 住みよい環境作り
- 活躍できる場の創出

外国人の増加

- 能力を活用する
雇用の促進
- インバウンド整備

- 一つ一つの特徴の政策を提案しても
発展しないことが分かる！
↓
- ニセコ町の4つの人口移動の特徴に
新たな「外国人の増加」という特徴を
有機的に融合し新たな政策提案する
必要がある

子どもの増加＋外国人の増加

- グローバル教育の充実
- 外国人の能力を活用する雇用促進
- 外国人・日本人の子どもたちとの交流機会

子どもの増加＋高齢者の転出が少ない

- 地域教育・児童保育への参加
- 高齢者の活躍の場の創出
- ニセコプライドの確立

20代の減少＋外国人の増加

- 街コンから国際的な出会いの場を提供
(結婚したいと思える相手がいない、と答えた方が最も多い)
- 新たな事業展開・定住に繋げる ↑出所:ニセコ町町民アンケート
- トрендある街づくり・国際的なイベントの開催

子育て世代の増加＋外国人の増加

- 農業従事者と観光業での雇用促進
- 子育て環境のグローバル化
- 地域ブランド品の開発

20代の減少＋高齢者の転出が少ない

- 後継者不足解消
- Uターン雇用の促進・高齢者の技術伝承

20代の減少＋子育て世代の増加

- 新たな事業の展開
- コミュニティーの幅を広げる
- 新たな地域の魅力の発掘

融合から見えるニセコ町

1つの課題を抽出し、政策提案しても解決出来ることが限られてしまう。

しかし融合することにより「柔軟かつ弾力的」に課題を解決することが出来る。そのことにより長期にわたっての定住が見込まれる。



ニセコ町の人口減少を防ぎ、今ある雄大な自然環境を守り、見合った人口を維持し、他の自治体にはない高い目標を達成することが出来る



日本でこの場所でしかできない
幸せのモデル都市ニセコを提案します